様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：３６１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ１１６５１

研究課題名（和文）女性がんサバイバーの心理的適応尺度の開発

研究課題名（英文）Development of the Scale on Psychological Adjustment of Women's Cancer Survivors -Study of its reliability and validity-

研究代表者
上田　伊佐子（Ueta, Isako）

徳島文理大学・保健福祉学部・准教授

研究者番号：９０７３５５１５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：女性がんサバイバーの心理的適応を測定する尺度を開発し，その信頼性，妥当性を検証することを目的とした．予備調査を基に，尺度の質問原案32項目を作成し，女性がんサバイバーに調査した．有効回答304を項目分析と因子分析した結果，20項目4因子からなる尺度が完成した．Cronbach's α係数は0.72以上であり内的整合性を示し，外的基準による基準関連妥当性，検証的因子分析よる構成概念妥当性が確認できた．PAWCSは一定の信頼性と妥当性を確保しており，今後，臨床で活用されるなかで，女性がんサバイバーの心理的適応を測定する有用な尺度になり得ることが示唆された．

研究成果の学術的意義や社会的意義
女性がんサバイバーは病気の成りゆきへの不確かさに加え，生殖に絡む問題や女性性の喪失などの問題も有することから，うつや適応障害などの有病率が高いといわれている．本研究では，現存のQOL尺度では捉えることができなかった女性がんサバイバーの心理的適応を測定する尺度を開発した．本尺度は，女性としてのしなやかな力強さや感情表出など女性がんサバイバーの特性を捉えた質問項目で構成されている．本尺度を看護介入の視点の抽出や成果評価に活用することで，女性がんサバイバーの主体的な生き方を支えていくための心理社会的介入研究が促進されていくことが期待できる．

研究成果の概要（英文）：The purposes of this study were to develop the Scale on Psychological Adjustment of Women's Cancer Survivors (PAWCS) and analyze its reliability and validity. Based on a pilot study, a temporary scale consisting of 32 items was prepared. The subjects for analysis were 304 who were women's cancer survivors. As a result of factor analysis, 4 factors comprised of 20 items were extracted. The reliability of the scale was confirmed by a Cronbach'sα internal consistency reliability coefficient of 0.72 for 20 items. Criterion-related validity was almost satisfactory for all areas. Confirmatory factor analysis was conducted by analyzing covariance structures and the hypothesized statistical model was found to fit the actual data. The reliability and validity of the PAWCS were confirmed. Therefore, this scale may be suitable for use with women's cancer survivors. Further, it is necessary to refine this scale.

研究分野：がん看護学

キーワード：女性がん　がんサバイバー　心理的適応　尺度開発

様　式　Ｃ－１９，Ｆ－１９－１，Ｚ－１９，ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

乳がんでは 40 歳代後半，子宮頸がんは 35～50 歳代前半に罹患のピークがあり，他のがんに比べて若年で罹患するという共通した特徴がある．これらの乳がんおよび子宮頸がん，子宮体がんなどの女性生殖器がん（以下，女性がんという）と診断された女性は治療により乳房や女性生殖器の一部を喪失したり，治療で内分泌機能や生殖機能に一時的あるいは恒久的に影響を受けることがある.そのようななかで,がんの告知を受けるタイミングが女性ホルモンの変動,家庭的・社会的役割変化のストレスを受ける時期と重なることもあり，ボディイメージの変容やパートナーとの関係性の変化などからくる女性としての自己の揺らぎを体験していると言われている．女性がん患者にはうつや適応障害などの精神障害の有病率が高いという報告もあることから大きなストレス状況下にあることは明らかであり，その支援は喫緊の課題である．

これまでがんサバイバーを対象にした看護介入研究の成果は健康関連 QOL (health-related quality of life: HRQL)尺度や，不安や抑うつなどの精神医学的診断指標で測定されてきた．しかし，現存の尺度ではがんサバイバーの主体的な生き方を支えていくという視点をうまく捉えることができないことが課題であった．そのような状況の中で，研究者らは「がんサバイバーの心理的適応尺度：Psychological Adjustment of Cancer Survivors: PACS」（上田ら，2016）を開発した．これは心理的適応の状態を測定する尺度であり，すべてのがんサバイバーに使用できる汎用性のある尺度である．しかし女性がんサバイバーは，前述のように生殖に絡む問題や女性性の喪失などの問題も有していることから，女性性という視点を加味するという課題が残されていた．以上のことから，女性がんサバイバーの女性性が反映された心理的適応尺度を開発する必要がある．

２．研究の目的

本研究では，女性がんサバイバーの心理的適応を測定する尺度を開発し，その妥当性と信頼性を検討することを目的とする．

３．研究の方法

(1)構成概念の抽出と質問項目の作成

2017 年の女性がんサバイバーを対象としたインタビュー調査の結果,女性がんサバイバーの心理的適応の構成概念として［女性としてくすぶらないでいる］［女性として主体的に生きている］［女性としての生き方の幅を広げている］［誰かと何かとつながっている］［等身大の私でいる］［悲観から卒業している］の 6 カテゴリーが生成された．これらを構成概念とし，48 の質問項目を作成した．

(2)内容的妥当性の検討

がん患者とがん看護研究者計 10 名による質問紙調査を行い，内容妥当性指数を求めた．42 項目が適切であると判断され，これを女性がんサバイバーの心理的適応尺度(the Scale on Psychological Adjustment of Women's Cancer Survivors：PAWCS)原案-42 とした．

(3)予備調査による原案の修正

2018 年 7 月，乳腺と女性生殖器がんの女性がんサバイバー40 人に PAWCS 原案-42 を調査した．有効回答 30（有効回答率 75.0%）について表面妥当性を検討し，項目分析後，探索的因子分析による内的整合性を確認した．その結果，32 項目が選定された．これを PAWCS 原案修正版-32 とした．

(4)本調査

乳がんおよび女性生殖器がんと診断され，医療を継続して受けている人を対象に，中四国の３施設の外来において，2018 年 8 月～12 月に調査をした.

PAWCS 原案修正版-32 と，がんサバイバー心理的適応尺度（PACS），Mental Adjustment to Cancer Scale 日本語版（MAC），不安抑うつ尺度（Hospital Anxiety and Depression Scale：HADS）を調査した. 病院責任者あるいは部署責任者に研究条件をみたす人を紹介してもらい，同意の得られた人に質問紙を手交配布した. 調査用紙は設置した回収箱か郵送法にて回収した.

(5)分析方法

項目分析，探索的因子分析後に，検証的因子分析でモデルを作成し共分散構造分析による適合度を確認した．適合度は，GFI(Goodness of Fit Index)， CFI（Comparative Fit Index），RMSEA（Root Mean Square Error of Approximation）を採用した．Cronbach's α係数から内的整合性を確認した．PAWCS と PACS，HADS，MAC との相関をみた.

徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会および本永病院倫理審査委員会の承認を受け実施した.

４．研究成果

(1)研究対象者の概要

470 人に調査を依頼し 313 人から回答を得た(回収率 66.6%)，有効回答は 304(有効回答率 64.7)であった. 平均年齢は 56.1±11.4 歳 (26-85 歳), 乳がん 74.3%, 子宮体がん 10.2%, 子宮頸がん 9.6%であった．がん告知から平均 81.2±66.0 か月が経過し，現在，ホルモン療法中 45.7%，化学療法中 8.2%であり，末梢神経障害を 33.2%，セックス時の痛みを 4.9%の人が有していた．パフォーマンス・ステータス(PS)は 98%が０か１であった.

(2) 項目分析

欠損頻度が５%以上の項目はなかった．天井効果が認められた 9 項目のうち 4.2 以上の 3 項目をこの時点で削除し，6 項目はがんサバイバーの心理的適応の概念上重要な項目であることからヒストグラムでの偏りが許容範囲内であることを確認して残した． I-T 相関が .2 以下であった 1 項目を削除し尺度の内部一貫性を確保した．尺度の総得点と各質問項目の相関係数は .36～.75 であり，新たな削除該当項目はなかった．以上，4 項目を削除し，28 項目とした．G–P 分析として，尺度の総得点平均で高・低得点群に分け，t 検定で比較した．高得点群の平均は低得点群よりも有意に高く($p<.001$)，項目と総得点が適切に対応していることを確認した.

(3)探索的因子分析と因子の命名

28 項目を一般化された最小 2 乗，プロマックス回転により探索的因子分析した．標準偏回帰係数を .45 以上とし，複数の共通因子の影響を排除した単純構造となるように，他の因子に .45 以上の負荷量がある項目を削除した． α係数の変化も確認し項目を選定した．この過程で女性としての生き方に関する質問が削除された．最終的に 20 項目４因子構造を採用し，これを女性がんサバイバーの心理的適応尺度(PAWCS)とした．全体得点による Kolmogorov-Smirnov 検定の結果，帰無仮説が保留されて正規分布であるとみなすことができた($p=.200$).

第１因子は，わかってくれている人がいる，一人じゃないなどの項目から構成され【誰かとつながっている】と命名した. 第２因子は，オシャレを楽しむなど，女性としてくすぶらない，枯れないなどの項目で構成され【女性としてくすぶらないでいる】と命名した．第３因子は，私のための時間が持てているや，頑張り過ぎないなど，その年令を等身大に生きる女性の心理状態を示しており【等身大の私でいる】と命名した．第４因子は，まだうつむいてしまう私がいる（逆転項目）や，まだ気持ちにブレーキをかけている（逆転項目）などの悲しさが続く心理状態を示していることから【悲観から卒業している】と命名した(表 1).

表１　女性がんサバイバー心理的適応尺度(PACS-W)の因子分析

因子名・項目	標準偏回帰係数			
	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
第１因子　誰かと何かとつながっている（α=.86）				
3わかってくれている人がいる	0.907	-0.001	-0.097	0.049
4一人じゃない	0.853	-0.121	0.006	0.093
17聞いてもらえる人がいる	0.753	0.013	0.117	-0.038
7夫やパートナー，大切な人との絆が強まった	0.693	0.135	-0.109	-0.202
24私を支えるものがある	0.460	0.132	0.139	-0.007
第２因子　女性としてくすぶらないでいる（α=.85）				
8オシャレを楽しむ	-0.012	0.880	-0.085	-0.028
9女性としてくすぶらない，枯れない	0.020	0.820	0.007	0.022
10今の私は，なかなか，イケてる	-0.003	0.801	-0.105	0.144
31女性として現役であり続ける	0.080	0.484	0.100	-0.063
28こころに潤いを持つ	0.084	0.456	0.355	0.049
第３因子　等身大の私でいる（α=.73）				
18私のための時間が持てている	0.100	-0.045	0.649	0.092
15頑張り過ぎない	0.068	-0.164	0.645	0.041
29私には弱さがあってもよい	-0.176	0.183	0.623	-0.166
32怠けたいときは積極的に怠けてみる	-0.052	-0.030	0.607	0.014
19これまでの価値観にこだわらない	0.037	0.005	0.531	0.015
第４因子　悲観から卒業している（α=.72）				
12まだ，うつむいてしまう私がいる	0.034	-0.065	-0.056	0.730
20まだ，気持ちにブレーキをかけている	-0.078	-0.022	0.058	0.668
23周囲に対する気疲れに耐えられない	-0.027	0.079	-0.038	0.555
2答えの出ない、もやもや感がある	0.003	0.172	-0.057	0.501
13治療で女でなくなった感じがする	-0.040	0.013	0.090	0.494
（因子間相関）第2因子	0.442			
第3因子	0.513	0.480		
第4因子	0.304	0.367	0.282	

注1)一般化された最小2乗－プロマックス回転

注2)標準偏回帰係数を0.45以上とした。１項目に複数の因子が0.45以上である場合は削除した.

(4)検証的因子分析

探索的因子分析の結果に基づく仮説モデルを図１に示した．生成された４因子からそれぞれ該当する項目が影響を受け,すべての因子間に共分散を仮定したモデルで分析を行ったところ,GFI＝.975, AGFI＝.970, CFI＝.915, RMSEA= .004 であり,パス係数はすべて.3 以上(p＜.001)であった．以上，仮説モデルは統計学的な許容水準を満たし，探索的因子分析を支持した．

(5)信頼性と妥当性の検討

尺度全体の Cronbach’ｓα係数は .87，各下位因子は .86～.72 であった．

当初の 6 構成概念は最終的に 4 因子になった．［女性として主体的に生きている］に属していた質問項目はなくなり,〔女性としての生き方の幅を広げている〕に属していた質問項目の〔治療で女でなくなった感じがする(逆転項目)〕は【悲観から卒業している】に集約された．因子の枠組みを超えての他因子への散らばりはなかった．尺度因子間の相関を表 2 に示した．

PAWCS の【誰かとつながっている】【女性としてくすぶらないでいる】【等身大の私でいる】【悲観から卒業している】の 4 因子とも，PACS の良好な心理適応を示す【がんと共に生きる自分を受け入れている】【成長した自分がいる】【自分を取り戻している】の 3 因子，および MAC の FS と有意な正の相関を示した．一方で，PACS の【うまくやれないでいる】および MAC の H/H，HADS の不安および抑うつとは有意な負の相関を示した．

以上,本尺度は一定の信頼性と妥当性を備えた尺度であることが確認されたことから,今後,臨床で活用されるなかで，女性がんサイバイバーの心理的適応を測定する有用な尺度になり得ることが示唆された。

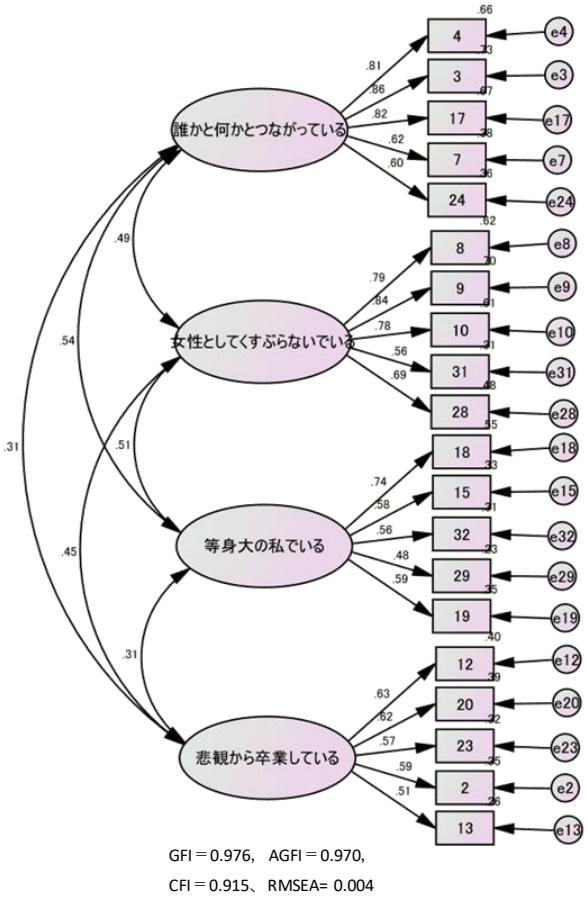

図１　PAWCSのモデルを仮定した共分散構造分析による標準化推定値

表2.女性がんサイバイバーの心理的適応尺度(PAWCS)とMAC, HADS, SPACSとの相関　n=304

		PAWCS				
		誰かとつながっている	女性としてくすぶらないでいる	等身大の私でいる	悲観から卒業している	主体的に生きている
PAWCS	女性としてくすぶらないでいる	0.461 **				
	等身大の私でいる	0.415 **	0.429 **			
	悲観から卒業している	0.227 **	0.356 **	0.206 **		
MAC	Fighting Spirit(FS)	0.495 **	0.510 **	0.407 **	0.139 *	0.600 **
	Helpless/Hopeless(H)	-0.200 **	-0.352 **	-0.181 *	-0.416 **	-0.321 **
	Anxious Preoccupation(AP)	0.053	-0.116 *	0.018	-0.504 **	-0.039
	Fatalism(F)	0.085	-0.060	0.087	-0.182 *	0.085
	Avoidance(A)	0.120 *	0.175 *	0.093	-0.016	0.074
HADS	HAD不安	-0.316 **	-0.342 **	-0.322 **	-0.587 **	-0.241 **
	HAD抑うつ	-0.360 **	-0.549 **	-0.322 **	-0.597 **	-0.304 **
PACS	がんと共に生きる自分を受け入れている	0.411 **	0.447 **	0.379 **	0.386 **	0.475 **
	成長した自分がいる	0.452 **	0.481 **	0.303 **	0.186 *	0.618 **
	自分を取り戻している	0.364 **	0.420 **	0.254 **	0.377 **	0.353 **
	うまくやれないでいる	-0.340 **	-0.432 **	-0.286 **	-0.639 **	-0.305 **

注）Pearsonの相関係数　　＊＊p<0.001　＊p<0.05

５．主な発表論文等

〔学会発表〕（計 14 件）

1.　上田伊佐子，太田浩子，雄西智恵美，小野美穂：女性がんサイバイバーの夫との性的関係

性の認知と対処，一般社団法人日本看護研究学会中国・四国地方会第 32 回学術集会，2019.

2. 上田伊佐子，太田浩子，雄西智恵美，小野美穂：乳がんと女性生殖器がんサバイバーの女性性の視点から捉えた心理の特徴，第 33 回日本がん看護学会学術集会，2018.
3. Isako Ueta, Chiemi Onishi, Hiroko Ota , Miho Ono : How long-term breast cancer survivors perceive their relationships with their partners，International Conference on Cancer Nursing 2018,2018.
4. 上田伊佐子, 太田浩子, 雄西智恵美 : 女性生殖器がんサイバーが認知する夫との関係性，第 32 回日本がん看護学会学術集会，2018.
5. 上田伊佐子，太田浩子，雄西智恵美：女性がんサバイバーが仕事を継続する理由とその対処，第 37 回日本看護科学学会学術集会，2017.
6. 太田浩子，上田伊佐子，雄西智恵美：妊孕性を失った女性生殖器がん患者の体験，日本看護研究学会第 43 回学術集会，2017.
7. 上田伊佐子，太田浩子，雄西智恵美：妊孕性を残すためにホルモン治療中断を選択する乳がん女性の心理的適応，日本看護研究学会第 43 回学術集会，2017.
8. 上田伊佐子，雄西智恵美：乳がんと女性生殖器がんサバイバーの心理的適応と影響要因の共通・相違性，第 32 回日本がん看護学会学術集会，2017.
9. 上田伊佐子，雄西智恵美：就労ががんサバイバーの心理的状態に与える影響，日本看護研究学会第 42 回学術集会，2016
10. Isako Ueta, Chiemi Onishi : Factors that influence psychological distress among cancer survivors, The International Society of Nurses in Cancer Care 2016, 2016.
11. 上田伊佐子，雄西智恵美：外来で医療を継続しているがんサバイバーの抑うつ・不安を予測する要因，第 36 回日本看護科学学会学術集会，2016.
12. Isako Ueta, Chiemi Onishi : Factors affecting coping strategies and psychological adjustment among cancer survivors, Factors affecting coping strategies and psychological adjustment among cancer survivors, 2016.
13. 上田伊佐子，雄西智恵美：がんサバイバーの心理的適応への影響要因 -男女の共通・相違性，第 30 回日本がん看護学会学術集会，2015.
14. 上田伊佐子，雄西智恵美：がんサバイバーの抑うつ・不安の実態と影響するコーピング反応，第 35 回日本看護科学学会学術集，2015.

６．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：雄西　智恵美
ローマ字氏名：（ONISHI　chiemi）
所属研究機関名：徳島大学
部局名：大学院医歯薬学研究部
職名：教授
研究者番号（8 桁）：00134354

研究分担者氏名：太田　浩子
ローマ字氏名：（OHTA　hiroko）
所属研究機関名：川崎医療福祉大学
部局名：看護学部
職名：講師
研究者番号（8 桁）：90321207